

## はじめに

2021年2月に『英語×「主体的・対話的で深い学び」— 中学校・高校 新学習指導要領対応—』（大学教育出版）を出版しました。本書はその続編と言えると思います。本書でも読者の皆さまのお役に立てることをうれしく思います。

読者の皆さまの生徒たちは、主体的・対話的で深い学びを楽しんでいますか。

Yesの答えの皆さまには、さらに質問があります。ではどうしたら、もっと主体的・対話的で深い学びを生徒たちが楽しんでもくれるでしょうか。

Noの答えの皆さまにもさらに質問があります。ではどうしたら、主体的・対話的で深い学びを生徒たちが楽しんでもくれるでしょうか。

このようにお尋ねする意図は、「主体的・対話的で深い学び」で生徒たちが楽しむ授業のあり方を皆さまと一緒に考えたい、ただそれだけです。

「主体的・対話的で深い学び」などを求める現行学習指導要領は、私たち教師に大きな変化を求めるものかもしれません。私たちはその学習指導要領の下で、教科書を使って授業をしています。さらにコロナ禍にあって、オンライン授業の実施、教室での学習内容・学習形態への対応など、学校は大きく様変わりすることが求められました。新たな時代に対応しようとする教育政策の変化に加え、コロナ禍への対応も加わり、学校は大変革の時を迎えたということです。

学習指導要領が変わり、教科書も変わり、コロナ禍が教育に変革を求めるかもしれませんが、不易流行とはよく言ったもので、変わっていない、変わってはいけない部分も意外とたくさんあります。変わっていないものがたくさんあるのも事実ですから、これに気づいて、教えることの基礎・基本さえしっかりしていれば、大きいと思える変化も実はたいしたことではないとわかってきます。

こういう時にこそ私たち教師は鷹揚に構えて、生徒たちにのびのびと接したいものです。そのお役に立ちたいと、教えることの基礎・基本を土台に、小学校との接続や生徒たちの躰きへの対応を重視しつつ、CLIL（内容言語統合型学習）、ICT（情報通信技術）、UDL（学びのためのユニバーサルデザイン）を取り入れた授業を紹介して、「主体的・対話的で深い学び」を可能にしてくれるアイデア満載の、いつの世にも色あせない本書を皆さまにお届けします。

著者の中学校の先生方は、生徒たちが「主体的・対話的で深い学び」を実現することを願って、コロナ禍の日々の勤務に忙殺される中、渾身の力を振り絞って原稿を完成しました。その熱意が読者の皆さまにきっと伝わると思います。

2022年9月

高橋昌由

## 本書をお読みいただくにあたって

本書では、最初の章のⅠで全体的な説明をして、Ⅱでは CLIL、ICT、UDL 以外の授業成功のカギを熟知された先生方に特別に執筆をお願いしました。取り上げたのは、学習指導要領の「本丸」とも言える「話すこと [やり取り]」、そして協同学習と PBL です。PBL は中学校の「総合的な学習の時間」や高校の「総合的な探究の時間」を包括すると考えています。

Ⅲでは、小学校、中学校、高校の小中高の接続を考えることなく中学校の学びを考えることはできないと考えていますので、まず、小中高の接続の一端を考え、次に小学校と中学校との小中接続の実践的なあり方を説き、最後に中学校と高校の中高接続を考えます。Ⅳでは CLIL、ICT、そして UDL を説明して、おススメの TIPS（秘訣）をお伝えします。皆さんの授業でも活用していただきたいと思います。

Ⅴの Stage 1 では、中学校の検定教科書に基づいた英語の授業を提案します。1 年生の授業については 3 人の先生方、2 年生と 3 年生の授業はそれぞれ 1 人の先生が提案します。本書では、いかにして小学校と中学校を接続するかを重視しています。1 年生を担当する授業では、まず、現在中学校で教鞭をとっている狩野先生と、中学校の先生ですが現在小学校で教鞭をとっている島岡先生が、すぐれた小中接続を見つめた授業を提案します。続いて園元先生は、小中接続を見つめ、音声面に注目する授業を提案します。1 年生の授業の最後は、藤澤先生で、PBL の授業の基礎を提案します。その後は、西川先生が 2 年生の授業を、最後は岡崎先生が 3 年生の授業を提案します。それぞれの先生が独自の思いで授業を提案しますから、統一した「指導案」ではありません。こんな教科書です！で教科書の内容を説明しています。授業の提案の後には Stage 2 で、CLIL、ICT、そして UDL に関するそれぞれの専門家と中学校の先生との対話でそれぞれの見解が述べられて、Stage 3 ではそれぞれの授業をまとめます。Ⅵでは全体を振り返ります。

本書には、文部科学省が著作権を所有する『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』からの引用が多数あります。引用文献にはその出典を明記するのが通例ですが、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』につきましては、それからの引用であることが容易におわかりいただけるであろう場合は、紙面の都合上その記載を控えさせていただき、学習指導要領とのみ記載するか、そのようにさえ記載しない場合もありますのでご了承ください。これに倣い、『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』は小学校学習指導要領と、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】は、中学校評価資料と記載します。引用文献は巻末に所載しますが、参考文献等は本編に所載しました。また、授業に役立つ情報提供をめざしたコラム等を配置しています。

中学英語「主体的・対話的で深い学び」× CLIL × ICT × UDL

---

## 目 次

はじめに	i
本書をお読みいただくにあたって	ii

## I

## 「主体的・対話的で深い学び」を達成するために

本書を貫く基本的な考えと思いなど	2
------------------	---

## II

## よりすぐれた英語授業実践の成功への基礎・基本のために

1. 「話すこと [やり取り]」: 「主体的・対話的で深い学び」の実現へのミニマム・エッセンシャルズ ..... 10
2. 協同学習: どの生徒も主役になれるための大切な TIPS と協同学習で「主体的・対話的で深い学び」の授業を創る ..... 12
3. プロジェクト型学習 (PBL): 授業にプロジェクトを取り入れるための基礎の基礎 ..... 22

## III

## 「主体的・対話的で深い学び」の成功のための小・中・高の接続

1. 小中高接続のあるべき姿への第一歩: 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 ..... 26
2. 小学校と中学校の接続: 中学校の「英語科」を始める前に考えていること・やっていること ..... 27
3. 中学校と高校の接続について: 中高連携のヒントとしての教員の学び ..... 32

## IV

## 求められる英語授業実践の基礎・基本のために：CLIL、ICT、UDL

1. 求められる英語授業実践の基礎・基本としての CLIL、ICT、UDL ..... 38
2. CLIL の TIPS ..... 39
3. ICT の TIPS ..... 40
4. UDL の TIPS ..... 41
5. TIPS の活用に向けて ..... 42

## V

## 実際の授業での展開例

1. 中1① 小学校と中1の接続 ..... 44
2. 中1② 中学英語の基礎の基礎 ..... 59
3. 中1③ 中学英語の基礎 ..... 78
4. 中2 中学英語の応用段階 ..... 95
5. 中3 中学英語の完成と中・高の接続 ..... 111

## VI

すぐれた授業を実現するために：「主体的・対話  
的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL の成功のカギ

- CLIL、ICT、UDL で「主体的・対話的で深い学び」の授業を成功させましょう！ ..... 130
- 引用文献..... 132
- 索引..... 133
- 執筆者紹介..... 137